

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	自発的な就労意欲を引き出すため、あえて枠を設けた環境にして、そこに順応してもらうことで働く意欲をリフトアップしている
	内容	利用者が自発的な就労意欲をもって、生き生きと働くことができるようになるため、事業所では、枠のある労働環境を用意し、そこに順応してもらうことで、やがて自立して積極的な労働を目指していけるよう支援している。働くということは自ら身体を動かすことによって何かを成し遂げることでそれに対する正当な報酬を得ることであることを体験的に理解してもらうことが重要だと考えている。そのため職員は利用者を一人の労働者として見るようにしており、十分な配慮を加えた環境下で、労働の厳しさも知ってもらっている。
2	タイトル	利用者の自立のため過ぎた支援はせず、残業などのちょっとした負荷で「達成感」を味わってもらい、飛躍のチャンスを作っている
	内容	事業所が働く場を提供しているため、それに焦点を当てた支援が行われている。そのため職員は合理的配慮を基礎にして過剰な支援は行っていない。それが大切だと事業所は考えている。利用者の言葉に耳を傾け、持てる力を十分に考慮することで、不必要な手出しは行わず、時として残業など十分に制御された負荷を加えることで、「やりきったこと」の達成感を味わい、飛躍のチャンスも設けている。そのため、事業所ではアセスメントに力を入れている。丹念にアセスメントを行うことにより利用者一人ひとりの力量・強みが発見できるからである。
3	タイトル	法人運営の次世代を担う中堅職員が施設長となり、職員の声に耳を傾けながら経営の安定化に共に取り組んでいる
	内容	法人の人事改革に伴い、次世代への継承をにらんだ経営陣の若返りをねらいとして、就任1年目の施設長が健闘し、事業所運営をリードしている。法人の事業急拡大を受け、増えてきた新人職員への法人理念の周知を課題とし、法人内施設と連携した会議で、重要な方針を確認し、協力し合っている。また、利用者の多様化などの変化や主軸となる資源回収事業の利益の減少傾向を踏まえ、利用者定員増と入所後の定着など、課題への取り組みを進めている。職員の日頃の気づきを改善につなげる満足度は9割を超えており、組織一体となって進めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域防災への貢献を前進させるため、災害が起きた場合の対応の取り決めを行政に提案し、明確にして行って欲しい
	内容	事業所は二次避難所に指定されている。しかし、その役割は不明確な部分が多い。このことは事業所としても認識しており、課題として抽出されている。例えば、過日、台風による暴風雨に見舞われた際、近隣住民からの問い合わせで、事業所建物への避難の打診があったが、事業所が河川に面した場所にあるため躊躇し、対応に難儀したことがあった。このような事態に陥らないため、今後は十分行政と業務の線引き、役割等を話し合い、結論を明確にした上で、緊密な連携を築いていくのが望ましい。
2	タイトル	法人の理念の下、中長期計画と整合する施設としての中長期目標の策定に取り組んでほしい
	内容	法人としての今後5年間の中長期計画、年間計画は作成されているが、施設としての中長期目標は未策定である。事業拡大に伴う職員育成の必要性、施設の事業環境の変化に応じた作業種の開発、新たな地域貢献など、中長期の課題についての議論も行っている。これらの課題を柱として、施設の運営基盤の強化のため、法人内事業所とも足並みをそろえ、サービスの拡充、専門人材育成、地域貢献、広報、危機管理などの項目を含めた、法人の中長期計画と整合する、今後、3～5年程度の事業展開を見据えた施設としての中長期目標が策定されることが望ましい。
3	タイトル	事業計画では、課題解決のための体制と役割を整備し、PDCAサイクルに基づき、事業を計画、実施、報告する流れを構築したい
	内容	職務内容の整理と、分担を考えるにあたり、利用者を進めるリスクマネジメントや、共に働き生きる人材育成、魅力ある作業種開拓など、法人全施設で推進すべき、重要な共通課題を抽出し、そこに取り組む体制として、委員会などを整備したい。委員会は、施設現場の実際の問題に対し、実践的な対応を検討する場とし、育成の場とすることもできる。就労継続支援B型事業についても、事業で直面している課題を柱として、対応事項を整理し、体制を明示して、PDCAサイクルに基づき事業を計画、実施、報告する流れを構築したい。